

## はじめに

近年、ディーゼル排気粒子は、発がん性等の健康影響との関連が疑われており、IARC（国際がん研究機関）による1988年6月時点の評価では、2A（人に対しておそらく発がん性を有する物質）とされるなど、国際的に注目されつつある。

こうした状況を踏まえて、環境庁（当時）では、平成12年3月27日に「ディーゼル排気微粒子リスク評価検討会」を設置して文献学的な調査研究を実施し、同9月8日に「中間とりまとめ」を報告した。

その後、定量的評価を視野に入れた文献調査の継続及び国内におけるディーゼル排気粒子の環境中濃度の推定のための各種計測を行ってきたところであるが、今回、一定の成果が得られたため、「平成13年度報告」として取りまとめることとする。